

2011年(平成23年)12月13日 火曜日



子どもたち特製の ひまわり油いかが

子どもたちがつくった「ひまわり油」の販売が12日、始まった。原料のヒマワリは、大館市立釈迦内小学校の児童300人が育てた。売りを体験した小畑結さん(6年)は「こんなにきれいな黄金色の油になるとは思わなかった。ドレッシング代わりにサラダにかけるのがおすすめです」と話す。

大館・釈迦内小300人

栽培→収穫→県庁で販売

ヒマワリを栽培し、地域の元気づくりやキャリア教育につなげようと、同小学校が昨年度始めた釈迦内サンフラワープロジェクトの一環だ。全校児童が5、9月、休耕田を借り、草むしりから種まき、収穫までをこなした。種を搾って製油する専門性の高い部分は業者に協力してもらった。

この日は児童6人が県庁で、佐竹敬久知事に栽培の楽しさや苦労を語り、催事コーナーで販売。149本が売れた。五十嵐経校長は「楽しいだけでなく、農作物を育て、売る大変さを体験するのが狙いで、子どもたちは成長した」と話す。

ひまわり油は千本つくった。100ミリットル入りで680円。

県庁や地域振興局内の売店のほか、JR秋田駅直結の産直野菜販売店、大館市内のスーパーなどで販売される。

ひまわり油を販売する釈迦内小学校の児童たち 県庁